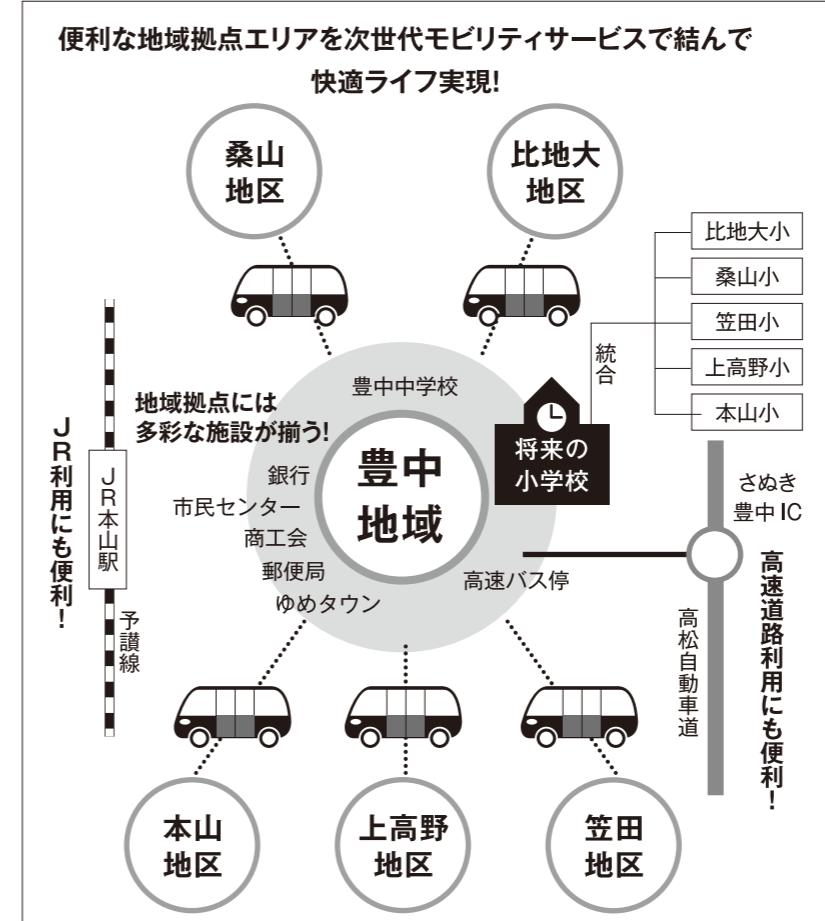


③ 豊中町を事例にして説明します

「多極・7町」の1つである豊中町では、現在ある5つの小学校も1校へ統合する計画が進んでいます。これは高齢者の交通の足の問題とともに、通学児童の交通の足もテーマとなります。そこで「分散・5小学校区」をネットワークとして見直すことです。

利用者がどの年代であっても、そこへ行く楽しみも必要にこたえらなければ利用度が上がりません。それにはルート周辺の魅力づくり、「ライフスタイルの提案」につながることで活性化の弾みになります。

一方で従来から指摘される運営経費の赤字体質も、ICT化で改善しつつ、お出かけ機会を広げる



●こんな時代だからこそ!
新型コロナウィルス感染症の拡大に伴って発令された「緊急事態宣言」によって、移動に係る価値観が大きく変わろうとしています。これまでの移動手段を見直し、「過度に自動車に依存した社会」から、「徒歩を含め多様な移動手段を賢く利用し、アフターコロナの『新しい生活様式』を見据えた社会構築」に向けた「モビリティマネジメント」で、市民が安心して豊かさを実感できる多極分散型ネットワークを実現していく

●地域の公共交通を魅力アップすることとは、福祉・教育の改善、土地利用計画、施設整備計画、観光政策など多岐に及びます。鉄道会社が運行だけで発展しているのではなく、沿線開発という創造力によってもたらされていることが好例です。

「たくままさし通信」復活の日。

通信【豊市版】第19号

2020年(令和2年)6月発行

JR利用にも便利!
予讃線

地域拠点には多彩な施設が揃う!
銀行 市民センター 商工会 郵便局 ゆめタウン

高松自動車道
高速バス停

桑山地区 比地大地区 本山地区 上高野地区 笠田地区

豊中中学校 将來の小学校

JR本山駅

豊中地域

志保の会
【連絡先】
〒769-1507 三豊市豊中町岡本270
TEL 0875-56-6113 FAX 0875-62-5914
E-mail info@8108.jp
Blog: www.8108.jp

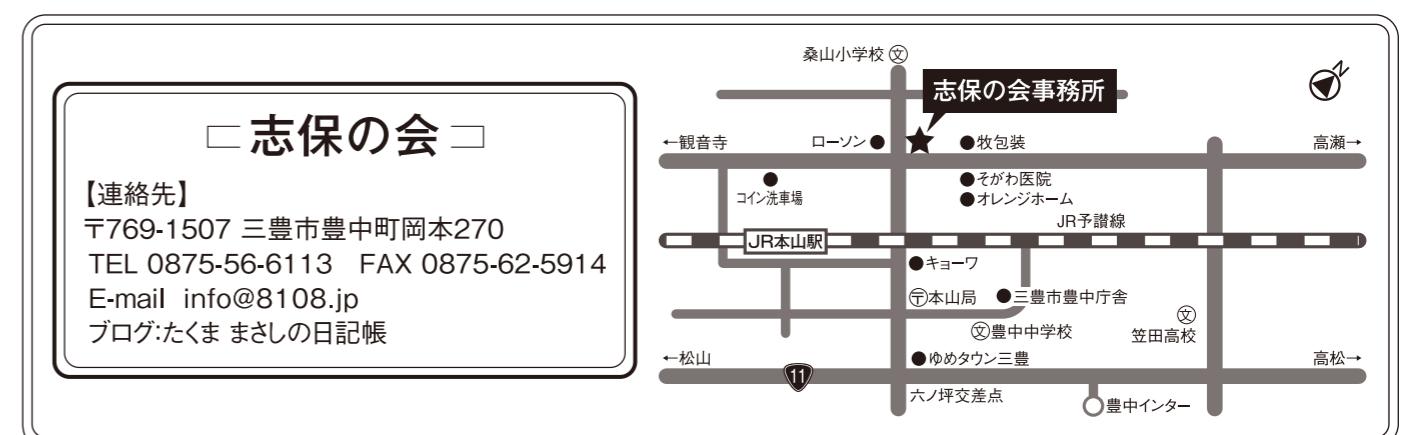
QRコード

新型コロナウィルスの感染拡大によって、市民の皆さんには生きづらい日々の中で、懸命に生活を営なわれてますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。私たちが何の疑問も感じることなく受け入れてきた当たり前の日常が、劇的にくつがえるような大転換期が迫りくる日々ですが、ともに頑張つていきましょう。

この2年間は、私の人生にとって、かけがえのない経験と気づきの日々でした。この貴重な時間で得ましたことを皆さんとともに、「コロナ後の新たな社会の構築とまちづくりに活かしていかなくてはならないと考えています。

さて私、詫間政司は、平成30(2018)年2月22日から令和2(2020)年2月25日までの2年間、市民の皆さんのご理解とご協力、ご支援によって、三豊市議会議長の任を全うすることができます。本紙面を借りまして御礼申し上げます。

その第一歩として、平成29(2017)年10月発行の「たくままさし通信・第18号」より2年以上お休みしていた本紙を、第19号リユース版として発行しました。今後はより多角的な視点で発行に取り組んでまいりますので、何卒ご拝読ください。



三豊の未来へ、たくまさしが鋭く迫る！

令和2年

第1回定例会代表質問

2年間の議長任期が終わり、久しぶりの質問になりました。

三豊市議会の会派「清風会」を代表して、

山下市長の令和2年度施政方針に対して8件の質問をしました。

1

豊かさ実感都市実現へ、市長にズバリ質問！

質問

山下市政となつてはや2年が過ぎ、後半の2年が始まる。一昨年に策定した第2次総合計画における本市の将来像は、「One MITOYO～心つながる豊かさ実感都市～」だ。施政方針では、豊かさを実感してもらうために、従来の常識や前例にとらわれない思い切った方法をとらなければならぬことあるが、豊かさ実感都市の実現に向けた政治姿勢と決意を問う。

答弁



2

三豊市の財政はどうなる？ 3つのポイントで聞く

質問

令和2年度予算案は、合併以来2番目の一般会計予算規模となつている。普通交付税の合併特例措



3

Aー活用で私たちの暮らしへどう変わる？

質問

中長期的な見通しの中で、計画的に進めていく。本市は交付税に大きく依存し、財政力も低いので、独自施策の原資を模索するため、合併特例債の発行が検討される。新たに、自治体クラウドファンディングにも取り組んでいく。合併特例債は、有利とはいえる御可能な水準にあることを確認した上で、将来世代も必要となる事業を厳選して活用していく。

*1 Aー・データーフラーニング技術を活用できる人材育成、事業創出をし、地域課題を解決するための研究機関

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用のアプリやゲームを開発するスキルを持ち、全国高専プログラミングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの今後の方向性を問う。

現状と今後の見通しを問う。また、Aー活用による自治体広域連携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携システムの今後の方向性を問う。

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

チャーが立ち上がりつたと聞くが、

現状と今後の見通しを問う。ま

た、Aー活用による自治体広域連

携も視野にあるとも聞いている。

4市3町の自治体広域連携シス

質問

MAIZM(※)が支援した高専生ベンチャー企業は、Aーを活用しあおり運転を検知するシステムの開発に取り組んでいる。起業した学生は、スマートフォン用

のアプリやゲームを開発するス

キルを持ち、全国高専プログラミ

ングコンテストで詫間キャンパスが最優秀賞を受賞した時のリ

テムの開設され、東大松尾研究室の起業支援を受け、香川高専詫間キャンパス初のAーベン

<

8

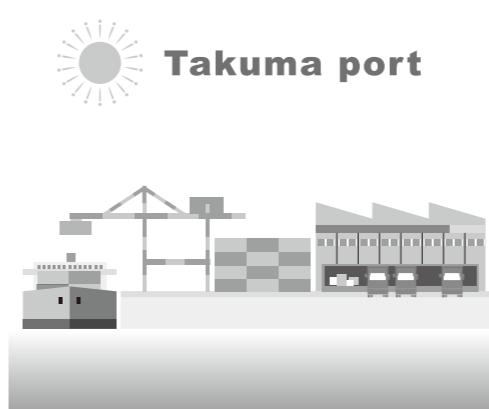
詫問港のハワード・アッブへ、その具体的な対策は？

110

国際港である詫間港について、市民から請願書が提出され、議会において幾度となく協議をしました。その中で、県に対しても要望書を提出した経緯がある。機能強化を含め県と協議をしていくとしているが、どのように取り組んでいくのかを問う。

答弁

港湾施設の機能強化は、その前提として詫間港の活性化が必要不可欠だと考える。企業に詫間港を利用してもらうために何が必要か、民間を巻き込むことが重要な利用方法を考えることが必 要だ。様々な活性化方法について企業と香川県とともに協議を進めているところだ。活性化のため



2 少子化

かなし安心感へ

周辺に小学校が集約されることを想定。通学距離が伸びても樂しい登下校や、その間の事故の心配がない安心感へ。

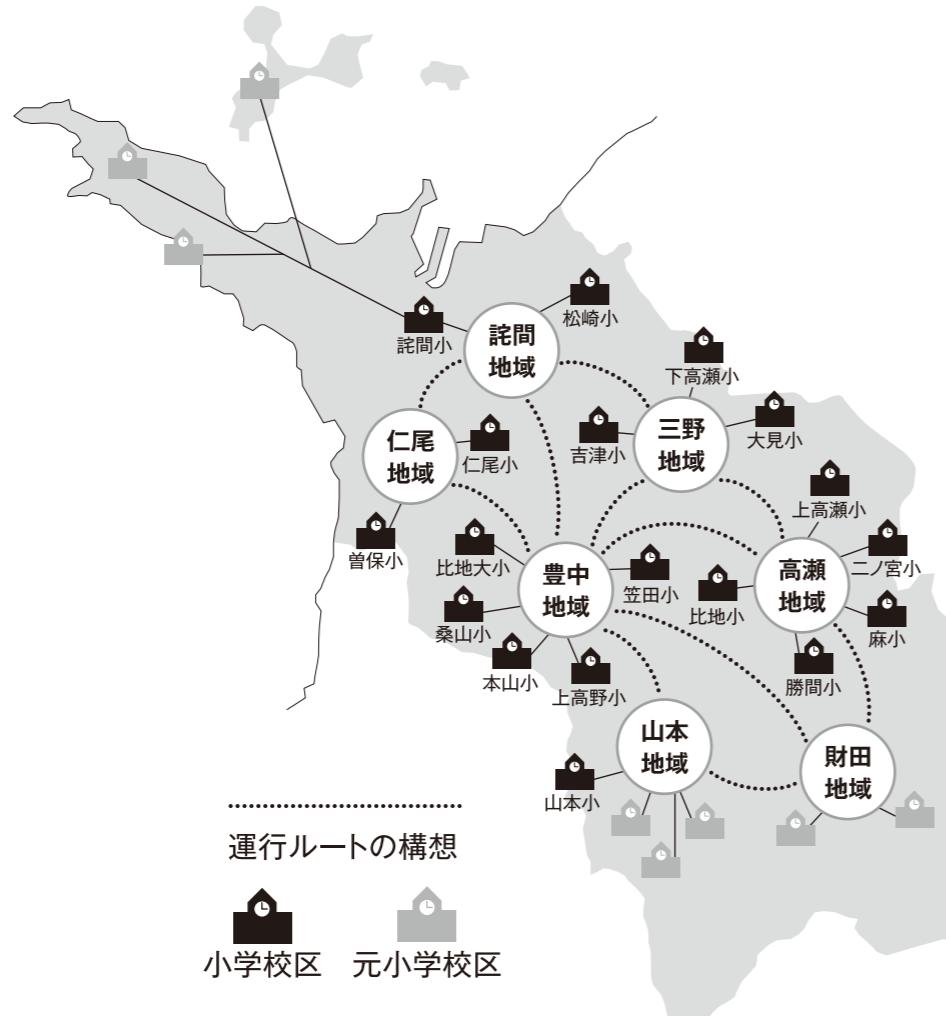
「ミユーティモービル」（小型の乗合モービルと想定。車種などは未定）の運行ルートの構想です。

学校分布を示しています。これは統合が構想されている7町の各小学校＝1校（ないしは2校）時代に向けて、その学校周辺の地域拠点を起点とした運行ルートを想定しています。分岐する運行ルートは元の小学校へとつなが

長年地元で暮らす高齢者には
合併前の町域であり学校区別と
重ねることで、懐かしさとともに
暮らしがやすさにもつながるのでは
ないでしょうか。

また同時に児童の通学ルートと重なることで、朝と夕方は児童の通学車両として、それ以外の時間は、通院や買い物、イベント参加などの車両として利用してもらいます。

こうした近距離でのルート運行は、運転者の労力負担の軽減、



多極分散型を

未来のまちづくりと 人づくりのために

どの地域にとつても将来における地域公共交通の維持と効率化は大きなテーマです。

高齢化とともに移動手段は、同居か近住の家族に支援される場合と、公共交通機関にゆだねる頻度が増える場合が一般的です。また後者の場合は、利用者を支える運行側の人材不足も懸念されています。

こうした将来を見据えて三豊市では、生活を支える「くらしの足」と、交流を支える「おでかけの足」の2面性から、市民の皆さんのがんばりを支える公共交通機関のありかたを、「多極分散型ネットワーク

1
高齢化

生活範囲が狭くなるので、より地域密着な移動ができることがストレスを減らします。特に家族の運転支援が得られない高齢者に配慮します。

ともに基幹ルートも整うことになります。

「分散」：元の小学校地を停留所にすることで、地区内利用者を集めでき、それが広域をカバーし利用度も活発にできる運行につながります。

一方で、遠距離となる中核病院への通院、JR駅利用など区域外への移動は従来の「ミニユーティバス利用との乗り入れで利便性を高めます。

②全体をICT化して運行時刻の効率を図り、またスマートフォン活用で定時外での予約運行や、利用者の停留所降車後の見守り（＝GPSを活用）など、利用目的の広がりとともに、安全・安心も高められると考えます。

「交通政策課」の設置の準備段階から大手自動車企業と計画し、市民の皆さんのが自由でストレスのない移動手段としていただけるよう三豊市公共交通計画の策定へ取り組んでいます。